

教育委員会

コラム Vol.17

教育長室の窓から

宇宙と教育



広報9月号の「ちょっといい話」で、地球防衛について取り上げましたが、本町には、内之浦宇宙空間観測所があり、宇宙に関心のある方々が多くいますが、これまで学校の教科の授業で宇宙について学習する機会が少なかったかと思います。

今年度、内之浦小学校をモデル校として、JAXA関係者と連携して「日々の授業から宇宙を知る」をコンセプトに、日常の教科の学習と宇宙を結びつける授業をスタートしました。教科の学習と宇宙を結びつけた取り組みは、全国でも稀な取り組みになります。さらに、文科省の授業時数特例校制度にも応募し、宇宙に関する授業を柔軟に進めています。

例えば、6年算数科の「三角形の相似関係、拡大と縮小」の学習では、直接測ることができない月までの距離を計算して知る学習を行います。まず、月にまつわる宇宙開発について学びます。次に、算数科で学習した三角形の相似の復習をします。そして、5円玉で月までの距離が測れるかと考え計算します。最後に、相似の使い方がわかれば東京タワーの高さも測れることを知り挑戦します。

この取り組みの良さは、日常の学習が宇宙とつながっていること、学んだことが何の役に立つのかを知ること、で、「学びの意味」を実感し自分で学ぶ意欲を高めると思います。さらに、将来子どもたちが就く仕事は、宇宙と関連している可能性が高いことが予想され、宇宙産業と全く無関係な仕事を探す方が難しいとも言われています。

小学生の時から宇宙を知る学習は、まさしく宇宙の町である本町でしかできない特色ある取り組みであると考えています。

教育長の

ちょっといい話

什（じゅう）の掟



私ごとですが、鹿児島県に来てよく聞かれたのが「福島県の方は、まだ薩摩に遺恨がありますか」です。戊辰戦争の際に、会津藩（現在の会津若松市）と薩摩藩、長州藩が中心の官軍が戦い、会津若松城（鶴ヶ城）攻防での悲劇がありました。今では、長州に対するわだかまりはありますが、薩摩に対してはそれほどではないかと思っています。

さて、鹿児島県には、薩摩藩の郷中教育の基本精神となったとされる47首の歌である「日新公いろは歌」（本町でも掲げている学校があります）がありますが、福島県には、会津藩の「什の掟」というものがあります。これは、「日新館」（会津藩の藩校）に入る前の子弟に対して、「ならぬことは、ならぬものです」（理屈ではなく、「いけないことはいけない）」という教えを徹底したものです。この教えは、今も「会津っ子宣言」として生きています。

近頃、新聞やテレビの報道で、痛ましいニュースがありますが、自分や他人のたった一つしかない命を奪ってもいい理屈などありません。もちろん、いじめもです。「だめなこと、相手が嫌がることなどを、したり言ったりすることは、絶対にいけない」「人間として、してはならないことをしない」など、今の子どもたち、私たち大人にとっても大切なことかと思っています。関心のある方は、会津藩の「什の掟」を紐といてみてはいかがでしょうか。

